

日本保健医療行動科学会

HEALTH BEHAVIORAL SCIENCE NEWS LETTER

第102号

2021年10月1日 発行

発行 日本保健医療行動科学会

〒631-8524 奈良市中登美ヶ丘 3-15-1 奈良学園大学内

Email: info@jahbs.info

Tel: 050-7115-5154

Web サイト: <https://www.jahbs.info/>

発行責任者 中川 晶

編集責任者 馬込武志, 吉岡隆之

2021年10月より「雑誌オンライン投稿・審査システム」が導入されます

日本保健医療行動科学会 編集委員長 樋口倫子

本学会編集委員会では予てより、雑誌投稿論文の投稿・審査管理の可視化と煩雑さの解消などを鑑みて「オンライン投稿・審査システム」の導入を検討しておりましたが、このたび理事会及び総会の議を経て2021年10月より運用を開始することになりました（当初は9月1日より運用開始を予定しておりましたが、様々な準備や試用等に時間を要し少し遅れて開始することになりました）。

2021年10月以降に本学会雑誌に投稿される場合は「オンライン投稿・査読システム（Editorial Manager®）」にて受付となります。準備が整いましたら本学会 Web サイト（<https://www.jahbs.info/>）に掲載し、会員の皆様にはメールでお知らせいたします。

<投稿手順の概要>

- ①本学会 Web サイトの「学会雑誌への投稿」から本学会雑誌専用「Editorial Manager®」Web サイト（<https://www.editorialmanager.com/j-jahbs/>）へアクセスしてください。
- ②本学会雑誌専用「Editorial Manager®」Web サイトに掲載されている「投稿規程（2021.10.1改訂版）」「投稿マニュアル（著者マニュアル）」をご参照の上、投稿に関する原稿や書類等を作成してください。
- ③投稿時には、ユーザー登録の上、「新規投稿」から著者（投稿者）としてログインし、必要事項を確認・入力してください。必要事項には「投稿論文チェックリスト」や新たに「利益相反関係の開示（報告）」も含まれております。投稿の際には「査読用論文（原稿）」「編集用論文（原稿）」「著作権譲渡同意書・誓約書」「英文校正（ネイティブチェック）証明書（必要時）」「利益相反開示書（必要時）」のファイルの提出が必要です。

今回の「オンライン投稿・査読システム」の導入に合わせて専任査読委員制度も導入することになりました。専任査読委員制度の詳細については検討中ですが、決まりましたら改めてお知らせいたします。

「オンライン投稿・査読システム（Editorial Manager®）」の運用には、年間サポート料のほか投稿あたりの利用料が必要となり、また査読者の必要経費や謝礼等も考慮し、将来的には、投稿者（著者）から掲載料をいただくことも検討しております。その節はご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

本件に関しご質問やご意見等がございましたら、本学会編集委員会（edit@jahbs.info）まで e メールでご連絡ください。

会員の皆様からの論文の投稿をお待ちしております。

日本保健医療行動科学会雑誌「投稿論文」随時受付中

学会雑誌に掲載する投稿論文は随時受け付けています。雑誌の発行は年2回（6月・12月の予定）です。投稿原稿の種類は、原著論文、総説、研究ノート、資料、実践・活動報告です。

オンライン講座「やってみたくなったオープンダイアログ」を開催して

ファシリテーター：瀬在泉、蓮井貴子、樋口倫子、金田和大

報告者 本学会理事（東京支部） 樋口倫子

1. やってみたくなった

生きていることの最も重要な特徴として会話がある（ハーレーン・アンダーソン、1997）。わたしたちの日常は、それほど会話で溢れている。言葉を介して、人はコミュニケーションをとる。ふだんの会話で使っている言葉に、もっと関心を寄せて、相手の視点からの景色をお互いが眺めたならば、これまでとは異なる展開が待っているのではないだろうか。

斎藤環先生の著書、「やってみたくなるオープンダイアログ」を読み、オープンダイアログの経験者4人（瀬在泉評議員、蓮井貴子理事、筆者、金田和大）が参集した。さっそくやってみたくなったので、「やってみたくなったオープンダイアログ」というタイトルの研究会を計画した。斎藤環先生は、「どんどんやってください」と、快諾くださった。そこで、メンバーは研修会の企画に向けたファシリテーターによる打ち合わせを、開始することにした。打ち合わせは、全員が対話的であることを心がけた。研修会をどんなふうに展開するか、どんなふうにワークをするか、メンバーそれぞれが得意とする役割を担いながら、参加者が心地よくいられる場を考えていった。

2. 対話のためのリスニング

2021年7月10日（土）に開催されたオンライン講座には、学会員10名、学会員以外7名、計17名が参加した。ファシリテーターは、やってみたくなったメンバー4人が務めた。初めに、対話実践の説明が対話形式でなされ、その後参加者全員が、自己紹介がてら参加動機や思いを述べあった。主に、医療や教育に携わるメンバーが参加した。

その後は、早速対話の基本姿勢（図1）とワークの説明がなされ、ブレイクアウトルームにわかれて、リスニング・ワークを演習した。テーマは、「今、心にあること」として話してもらった。「相手のことはわからないのだ」という無知の姿勢で、相手に関心を寄せ、相手の発している言葉の意味を大切にしながら、丁寧に聞くことを体験していただいた。参加者は、普段の会話が、聞き流されていることがよくあること、きちんと聞いていてくれる体験があまりにも少ないと語っていた。

次に、オープンダイアログに特徴的なリフレクティング・ワークを体験してみた。

対話の基本姿勢

- ※ 「相手のことはわからない」ということから始める
- ※ 基本的に聴くが、あらゆる質問もOK
- ※ 結論を急がない（不確実性への耐性）
- ※ 決めつけない
- ※ 推論に推論を重ねない
- ※ 反対意見を含む、自分と違う意見も尊重する
- ※ 意見の違いを優劣・善悪などと結びつけない
- ※ 間を大事にする



図1 対話の基本姿勢

3. リフレクティングとは

リフレクティングは、「より広い文脈の中で「はなす」ことと、「きく」ことを、丁寧に行きつ、戻りつする仕組み」である。リフレクティングは、ワンウェイミラーを隔てて専門家が観察・解決策の提案を行っていた家族療法の中で生まれたものである。このとき、専門家たちは、互いに自分の見立てや介入方法をめぐって張り合う関係になりがちだった。観察室の中では、相手からは見聞きできないので家族の悪口や批判的な言葉も飛び交っていた。こうした状況に違和感を感じ、専門家同士の話し合いを逆に家族に観察してもらい感想を言うってもらう方法が考案された。1985年3月に、リフレクティングの開発者であるトム・アンデルセンたちが、このミラーを取り払って、専門家同士の話を直接相談者にきいてもらうことにしたことからはじまる。

しばしば、日常の会話の中では同じやり取りが続いて、問題解決が進まない状態に陥ることがある。この時、リフレクティングを用いると、会話を外側からみってもらうことで、新たな気づきがうまれる。対話の場を、メンバーと共有し、それまでに話されたことについて感じたことを表現しあう場を設け、参加したメンバーに話をきいてもらう。すると、リフレクティングメンバーの感じ方や視点からの気づきを聞きながら、同時に内的な会話が生じて自分の気持ちを整理することができる。自分が語ったことから一度離れて聞くことに徹すると、自分のことをとらえなおす機会となる。リフレクティングは、相手の文脈からそれないこと、否定的に伝わる言い方や断言はさけるなどのルールがある。このルールに注意しながら、演習が実施された（図2）。

リフレクティングのルール (矢原, 2016)

- 他の文脈を持ち込んだ解釈をしない
「私が…を聞いた時は、私は…という感想を持ちました」○
「○○の理論によれば…」×
- 断定的な話し方を避ける
- 参加者について否定的に伝わるようなことを言わない
- 聞かなくてもいいルール
はじめに、さまざまな意見の中から、気に入るものだけを取り入れるように促す。

図2 リフレクティングのルール

4. リフレクティングは自分の視野をひろげ、新たな可能性を見つけるきっかけになる

リフレクティングの体験に関する感想を紹介したい。

<参加者からの感想>

他者との対話を通じて客観的に「自分」を見直すきっかけに

「お互いにリラックスして素直に思いを伝え合える活動だなと思いました。自分では気づかなかった感想や意見を貰えるリフレクティングは自分の視野をひろげ、新たな可能性を見つけるきっかけになるのではないかな。他者との対話を通じて客観的に「自分」を見直すきっかけや、また他者とじっくり対話をし、思いを伝え合うことで絆を深めるきっかけとなり、結果的に「自他共に尊重すること」に繋がるのではないかと感じた。」

問題は解決しないけれども、共有してもらえらるるの意義を感じた

「会話の枠組みでは普段話せないことを話すことができました。問題は解決しないけれども、共有してもらえらるるの意義を感じました。アドバイスをもらうことを求めているわけではないので、聞いてもらえらるることや、聞いた感想をリフレクティングで返してもらえらるることは大変ありがたいと思った。日常の中でこれだけ丁寧に話を聞いてもらう機会がないことにも気づきました。ひとり1人の人がこんな風に話を聞いてもらえたら、そして相手の話を聞くことができたなら、それだけでとても尊重されていると感じられると思いました。日常の中に取り込めたらいいけれども、それがなかなか難しいところが課題なのかなとも思いました。」

<ファシリテーターの感想>

対話の広がりを実感した

話すことと聞くことをわけることで話し手の物語の正解をゆっくり味わうことができ。また、対話が広がっていくことを私自身も実感しました。とても濃厚でホッとする時間を過ごすことができました。そして、相手とのコミュニケーションの間に余白を持てるようにすること、リフレクティングではいかに相手の鑑になれるかは、それほど簡単なものではないということも感じました。今後も積み重ねていきたいです。（蓮井貴子）

不思議と元気をもらえる体験だった

「(私はオープンダイアログの専門家ではないけれど)なんだか面白そうだし、まずはやってみよう!」というノリでこの企画に参加しました。企画側と参加されたみなさんと一緒に作り上げた3時間。リスニングで自分の話を「語ったり」、リフレクティングで自分のことを「聴いてみる」体験は、予想以上に発見も多く、なにより不思議と元気をもらいました。「開かれた対話」、人は関係性の中で存在し肯定的な関心を持ち合うことができたなら、躍起になって正解を見つけなくてもよいのだなあと、肩の力が抜けました。（瀬在泉）

自分の大切にしたいことや経験してることをゆっくり振り返るいい時間だった

技法を学ぶというよりも、対話の場を体感できる中々ない研修会になったんだなーと感じています。参加者のみなさんの、「聞き手としては、最初はなにか無理に関わろうとしてしまっていたので、もっと自然体でありたいと思います。」「研修会でのロールセッションであることも一瞬忘れてしまうほどの体験でした。この感覚は来談者の感覚を理解するのに役立つと確信しています。」「実際に演習をしてみることで、自分自身の価値観を言語化したり振り返ったりする体験をすることができました」という言葉が印象に残っています。

そこには、メンバーが様々な声を出し合って場づくりができたことや、長めに自己紹介を取れたこと、リフレクティングワークもたっぷり時間があつたこと等がいい影響になったのかなーと、感じています。僕にとっても、グループでリフレクティングしたり、してもらう時間は、自分の大切にしたいことや、経験してることをゆっくり振り返るいい時間だったなあと思いました。（金田和大）

5. 対話はスキルよりも姿勢と哲学性

研修会は、あらかじめ多くのことを決めないように、対話がスキルではなく、姿勢やこころがけであることを感じ取っていただけるようにした。スタッフが、対話的な関係を心がけたらどうなるのかの実験の場でもあった。対話的な関係を続けた結果、各々が得意とする力を発揮し、お互いを無理なくバックアップする関係ができていた。だから、この研修会は、今後も継続していこうということになった。スタッフが、参加者に多くを教えてもらえる場になっていた。

対話は、論破する議論とも、妥協や忖度する話し合いではない。対話は、お互いの未来を創ることや新しい関係を創ることを意味する。「無知の姿勢」で、未知の可能性を秘めた海と一緒に飛び込む感覚だ。少々の勇気と仲間への信頼を携え、海に飛び込む。見たこともない壮大な景色に出会えるだろう。対話は、そんな場所だった。

支 部 活 動 案 内

◎最新の支部活動案内は、本学会 web サイトに掲載しています！

▼第 107 回東京支部研究会 【計画中】

日本保健医療行動科学会 東京支部事務局（樋口倫子）
〒279-8550 浦安市明海 1 丁目 明海大学
Email: nhiguchi@meikai.ac.jp Tel: 047-355-5120（教員代表）

▼第 138 回近畿支部研究会 【諸般の事情で休止中】

日本保健医療行動科学会 近畿支部事務局（馬込武志）
Email: jahbs.k@gmail.com（近畿支部専用アドレス）

▼第 63 回北海道支部研究会 【諸般の事情で休止中】

日本保健医療行動科学会 北海道支部事務局（森谷 満）
〒002-8072 札幌市北区あいの里 2 条 5 丁目 北海道医療大学病院内科・心療内科
Email: jahbshokkaido@yahoo.co.jp Tel: 011-778-7575（病院代表）

日本保健医療行動科学会 第36回（2021年度）総会報告

第36回（2021年度）総会は2021年6月26日（土）にオンライン会議（Zoomによる）として開催されました（第35回学術大会第1日目）。中川晶会長の司会進行のもと、中川会長の開会宣言、安酸史子第35回学術大会長の挨拶の後、総会の議長は上杉裕子氏（評議員）、書記は藤田裕一氏（評議員）が選出されました。総会では、最初に2020年度の「①事業報告《第1号議案》（総会資料1）」、「②収支決算報告《第2号議案》（総会資料2）」が行われ、引き続き、「②監査報告（総会資料2）」として「事業及び会計が適正に行なわれている」との報告が行われ、いずれの議案も異議なく承認されました。次に、2021年度の「③事業計画《第3号議案》（総会資料3）」、「④予算案《第4号議案》（総会資料4）」の説明があり異議なく承認されました。次に、電子投票導入及び選出人数と投票人数の一致に関する「⑤理事、監事選出規約の改定（総会資料5）」、「⑥投稿論文の投稿・審査システム（Editorial Manager）の導入（総会資料8）」、投稿・審査システム導入及び投稿の実情に合わせた「⑦投稿規定（総会資料6）」及び「⑧投稿原稿チェックリスト（総会資料7）の改定」、「⑨プライバシーポリシー（総会資料9）の制定」についてそれぞれ説明があり、いずれも異議なく承認されました。その後、前回の2020年度総会以降の「⑩役員の退任、就任、補充（総会資料10）」について報告があり、総会は終了しました。総会に引き続き、「⑪各支部の研究会報告及び収支決算報告（総会資料11）」が行われました。なお、2020年度の中川記念奨励賞及び奨励研究員の応募はありませんでした。最後に次回第36回学術大会長の樋口倫子理事より挨拶がありました。

①2020年度事業報告（2020年4月1日～2021年3月31日）《第1号議案》（総会資料1）

1. 2020年度総会の開催
期 日：2020年6月20日（土）
オンラインによる開催（Webでの事前資料閲覧とZOOMによる会議）
2. 第35回学術大会・総会の開催準備
テーマ：医療者が当事者性を持つことの意義を問う
大会長：安酸史子（関西医科大学）
期 日：2021年6月26日（土）27日（日）
会 場：オンラインによる開催（Zoomによるリアルタイム配信）
3. 第36回学術大会・総会の開催準備
テーマ：未定
大会長：樋口倫子（明海大学）
期 日：2022年6月（予定）
会 場：未定
4. 第8回国際保健医療行動科学会議開催の検討
期日、開催地は未定
5. 機関誌（雑誌）の発行
雑誌 第35巻1号『身体活動と行動科学』（2020年7月発行）
雑誌 第35巻2号『新型コロナ時代の行動変容』（2021年3月発行）
6. 機関誌（雑誌）の発行準備
雑誌 第36巻1号『（未定）』（2021年6月発行予定）
雑誌 第36巻2号『医療者が当事者性を持つことの意義を問う（仮）』（2021年12月発行予定）
7. ニュースレターの発行
第100号（2020年8月）、第101号（2021年3月）
8. 理事会の開催（5回）
第12期第6回（2020年5月17日・オンライン会議）
第12期第7回（拡大）（2020年6月20日・オンライン会議）
第12期第8回（2020年8月10日・オンライン会議）
第12期第9回（2020年11月29日・オンライン会議）
第12期第10回（2021年2月21日・オンライン会議）
9. 顧問・評議員会の開催（1回）
期 日：2020年6月20日（土）
オンラインによる開催

10. 企画運営委員会の活動等
 質的研究研修会（3日間）のうち残り2日間（2020年11月7日、8日）
 オンライントーク「孤立防止と健康支援—社会的処方めぐって—」（2020年12月5日）
 学会企画共同研究「多職種における話す・聞くことによる患者理解の特徴（仮）」
 会員管理システム（SMOOSY）の導入と運用開始
 学会 web サイト刷新の検討、雑誌投稿システムの導入検討
11. 中川記念奨励賞の選考（2019年度応募者1名）・募集（2020年度応募者なし）
12. 奨励研究員の選考（2019年度応募者なし）・募集（2020年度応募者なし）

②2020年度収支決算報告及び監査報告（2020年4月1日～2021年3月31日）《第2号議案》（総会資料2）

2020年度予算		2020年度決算	
収入の部		収入の部	
	(単位：円)		(単位：円)
年会費 (7000*380,5000*8)	2,700,000	年会費 (7000*320,5000*22)	2,350,000
機関誌（雑誌）売上	200,000	機関誌（雑誌）売上	325,595
前年度からの繰越金	2,731,690	前年度からの繰越金	2,731,690
利息	0	利息	1
その他	0	その他 (34 回大会補助返金・オンライントーク参加費)	15,124
合 計	5,631,690	合 計	5,422,410
支出の部		支出の部	
	(単位：円)		(単位：円)
機関誌（雑誌）発行費	900,000	機関誌（雑誌）発行費	700,695
印刷費	180,000	印刷費	59,463
人件費 (69,600*12)	835,200	人件費 (69,600*12+時間外勤務一部 10,050)	845,250
通信連絡費	300,000	通信連絡費	166,906
消耗品・備品費	70,000	消耗品・備品費	171,780
会議費	224,000	会議費 (web 会議 zoom)	20,942
第 35 回学術大会補助費	400,000	第 35 回学術大会補助費	400,000
支部活動補助費	120,000	支部活動補助費	0
学会事務所運営費（電話代等）	20,000	学会事務所運営費（電話代等）	4,179
編集委員会費	200,000	編集委員会費	0
中川記念奨励賞副賞	50,000	中川記念奨励賞副賞	50,000
学会 web サイト運営費（サーバー等 16,000・会員管理 407,000）	423,000	学会 web サイト運営費（サーバー等 17,083・会員管理 43,241）	60,932
企画運営委員会活動費 (web サイト移設等 200,000・その他 200,000)	400,000	企画運営委員会活動費 (オンライントーク謝礼)	10,000
予備費	1,509,490	その他 (事務局謝礼)	22,980
		次年度への繰越金	2,909,283
合 計	5,631,690	合 計	5,422,410

(注：2020年度決算収入の部年会費 2,350,000 円のうち 54,000 円は 2021 年度年会費)
 ※次年度繰越金を除く支出合計 2,513,127 円 (収入合計 5,422,410 円一次年度繰越金 2,909,283 円)

＜2020 年度特別会計＞ (2021 年 3 月 31 日現在) (2019 年度末特別会計残高 1,946,386 円)

事業費積立金残高	1,783,064 円	2020 年度収入合計 109,894 円 (教科書売上 109,880 円、利息 14 円) 2020 年度支出合計 273,216 円 (質的研究研修会：講師謝礼 200,466 円、不参加者 5 名返金 70,000 円、振込手数料 2,750 円)
----------	-------------	---

会則第 20 条に基づき、事業報告及び収支決算の監査を実施しましたので報告します。

1. 監査対象 ①2020 年度事業報告 ②2020 年度収支決算
2. 監査報告 上記のとおり、納入、支出がなされ、証拠書類の保存、整理及び帳簿への記帳は良好であったことを承認します。

2021 年 5 月 22 日

監 査 花家 薫
林 哲也

③2021 年度事業計画（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）《第 3 号議案》（総会資料 3）

1. 第 35 回学術大会・総会の開催
テーマ：医療者が当事者性を持つことの意義を問う
大会長：安酸史子（関西医科大学）
期 日：2021 年 6 月 26 日（土）・27 日（日）
会 場：オンラインによる開催（Zoom によるリアルタイム配信）
2. 第 36 回学術大会・総会の開催準備
テーマ：対話と保健医療（仮）
大会長：樋口倫子（明海大学）
期 日：2022 年 6 月 18 日（土）・19 日（日）（予定）
会 場：ハイフレックス（Hybrid-Flexible）（リアル会場：明海大学）（予定）
3. 第 8 回国際保健医療行動科学会議開催の検討
期日、開催地は未定
4. 機関誌（雑誌）の発行
雑誌 第 36 巻 1 号『長期化するパンデミック下の保健行動科学』（2021 年 7 月発行予定）
雑誌 第 36 巻 2 号『医療者が当事者性を持つことの意義を問う（仮）』（2021 年 12 月発行予定）
5. 機関誌（雑誌）の発行準備
雑誌 第 37 巻 1 号（2022 年 6 月発行予定）
雑誌 第 37 巻 2 号（2022 年 12 月発行予定）
6. ニュースレターの発行
第 102 号（2021 年 8 月）、第 103 号（2021 年 12 月）、第 104 号（2022 年 3 月）（予定）
7. 理事会の開催（5 回）
第 12 期第 11 回（2021 年 5 月 9 日）（オンライン会議）
第 12 期第 12 回（拡大）（2021 年 6 月 26 日）（オンライン会議）
第 12 期第 13 回（2021 年 8 月）（オンライン会議）（予定）
第 12 期第 14 回（2021 年 11 月）（オンライン会議）（予定）
第 12 期第 15 回（2022 年 2 月）（対面・オンライン会議併用）（予定）
8. 顧問・評議員会の開催（1 回）
2021 年 6 月 26 日（土）（オンライン会議）
9. 企画運営委員会の活動等
 - ・学会企画共同研究「多職種における患者理解の特徴（仮）」
 - ・オンライントーク・シンポジウム等の開催検討（新型コロナ時代の行動科学、人工知能など）
 - ・雑誌投稿・審査システムの導入
 - ・学会 Web サイト刷新とレンタルサーバー移行
 - ・理事・監事選挙における電子投票の検討・導入、理事・監事選出規約等の改定
 - ・雑誌の電子ジャーナル化の検討（J-STAGE、DOI など）
 - ・ニュースレターの電子化の検討
 - ・教科書改訂の検討

10. 第13期理事・監事選挙の実施（2021年12月）（電子投票により実施予定）
11. 中川記念奨励賞の選考（2021年度応募者なし）・募集（2022年度）
12. 奨励研究員の選考（2021年度応募者なし）・募集（2022年度）

④2021年度予算案（2021年4月1日～2022年3月31日）《第4号議案》（総会資料4）

収入の部 (単位：円)	
年会費（通常7,000*360、大学院5,000*20）	2,620,000
機関誌（雑誌）売上	200,000
前年度からの繰越金	2,909,283
利息	0
その他	0
合 計	5,729,283
支出の部 (単位：円)	
機関誌（雑誌）発行費	900,000
印刷費	180,000
人件費（69,600/月*12 + 2020年度時間外勤務分割払分90,000）	925,200
通信連絡費	300,000
消耗品・備品費	30,000
会議費（理事会等交通費200,000、ZOOM・Google Workspace等利用料30,000）	230,000
学術大会補助費（ハイフレックスで開催予定）	600,000
支部活動補助費	0
学会事務所運営費（電話代等）	20,000
編集委員会費	50,000
雑誌投稿・審査システム運用費（初期導入費660,000・運用費220,000）	880,000
中川記念奨励賞副賞	0
学会webサイト等運用費（サーバー等16,000・Webサイト移設等200,000）	216,000
会員管理システム運用費	450,000
企画運営委員会活動費（共同研究400,000、その他100,000）	500,000
役員選挙費（電子投票システム利用料等）	60,000
予備費	388,083
合 計	5,729,283

＜2021年度特別会計＞ (2020年度末特別会計残高1,783,064円)

○本学会編 教科書『講義と演習で学ぶ保健医療行動科学』（2017年3月10日発行）
改訂版（2022年3月発行予定）発行費 450,000円

⑤理事、監事選出規約の改定（総会資料5）

電子投票の導入及び選出人数と投票人数の一致に関する改定

※詳細は本学会のWebサイト参照（「会則・規約等」のページに掲載済）

⑥投稿論文の投稿・審査システム（Editorial Manager）の導入（総会資料 8）

※詳細は本ニュースレター第 102 号の第 1 面を参照

⑦投稿規定の改定（総会資料 6）

「投稿・審査システム」の導入及び投稿の実情に合わせた改定（補足説明）
（2021 年 10 月以降に「投稿・審査システム」の導入と同時に改定施行予定）

※詳細は本学会の Web サイト参照（「会則・規約等」のページに掲載予定）

⑧投稿原稿チェックリストの改定（総会資料 7）

投稿の実情に合わせた改定（補足説明）

※詳細は本学会の Web サイト参照（「会則・規約等」のページに掲載済）

⑨プライバシーポリシーの制定（総会資料 9）

本学会の Web サイト参照（トップページ下部中央に掲載済）

⑩役員の退任、就任、補充（総会資料 10）

＜理事の退任＞ 藤崎 郁（看護学）（2021 年 3 月 31 日付）

＜評議員の退任＞ 高橋 徹（医学）（2021 年 3 月 31 日付）

＜委員の就任＞

【選挙管理委員会】（任期：2021 年 6 月 1 日～2022 年 5 月 31 日）（委員長は委員の互選：未定）

大門恭平（健康科学）、藤田裕一（心理・福祉学）、吉岡隆之（健康科学）

＜委員の退任＞

【中川記念奨励賞選考委員会（常設）】 藤崎 郁（看護学）（2021 年 3 月 31 日付）

【企画運営委員会（特別委員会）】 藤崎 郁（看護学）（2021 年 3 月 31 日付）

＜委員の補充＞

【中川記念奨励賞選考委員会（常設）】 末松弘行（医学）（任期：2021 年 5 月 9 日～2022 年 5 月 31 日）

⑪各支部の研究会報告及び収支決算報告（総会資料 11）

■東京支部研究会報告及び収支決算報告（2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）

回数	年月日	会場	テーマ（報告者）
第 104 回	2020 年 7 月 18 日（土） 19:30-21:00	オンライン	テーマ：コロナ時代の行動科学 〔スピーカー〕 諏訪茂樹（東京女子医科大学） 蓮井貴子（東京医療保健大学） 林哲也（河合塾コスモ、明海大学学生相談室） 〔コーディネーター〕 樋口倫子（明海大学）
第 105 回	2021 年 1 月 19 日（日） 10:00-16:00	オンライン	テーマ：チームワーク・トレーニング — 強くて優しいチーム作り 講師：諏訪茂樹

収入の部		支出の部	
前年度よりの繰越金	265796 円	研究会講師謝礼	0 円
支部活動補助金	0 円	会議費（打ち合わせ弁当代）	2,535 円
研究会参加費	4,500 円	雑費（コピーカード代）	3,300 円
		次年度への繰越金	264,461 円
収入合計	270,296 円	支出合計	270,296 円

■北海道支部研究会報告及び収支決算報告（2020年4月1日～2021年3月31日）

諸般の事情により、北海道支部研究会は開催せず（次回は第63回）。

収入・支出共なし。次年度への繰越金は154,931円。

■近畿支部研究会報告及び収支決算報告（2020年4月1日～2021年3月31日）

諸般の事情により、近畿支部研究会は開催せず（次回は第138回）。

収入・支出共なし。次年度への繰越金は63,264円。

日本保健医療行動科学会 役員・委員会構成（敬称略、五十音順）（2021年10月1日現在）

第12期（任期：2019年6月1日～2022年5月31日）（顧問は任期の定めなし）

〈顧問〉稲岡文昭（看護学）、仲尾唯治（社会学）、藤崎和彦（医学）、南 裕子（看護学）、宗像恒次（健康科学）、
John Launer（ジョン・ローナー）（医学、英国）、Brian Hurwitz（ブライアン・ハーウィッツ）（医学、英国）

〈会長〉中川 晶（医学）

〈副会長〉諏訪茂樹（社会学）、吉岡隆之（健康科学）

〈理事〉梓川 一（心理・福祉学）、大門恭平（健康科学）、岡 美智代（看護学）、末松弘行（医学）、
高橋裕子（医学）、豊田久美子（看護学）、任 和子（看護学）、蓮井貴子（看護学）、
樋口倫子（心理・福祉学）、深井稜博（歯学）、馬込武志（社会学）、宮本真巳（看護学）、
村岡 潔（社会学）、元村直靖（医学）、森谷 満（医学）、安酸史子（看護学）

〈監事〉花家 薫（健康科学）、林 哲也（健康科学）

〈評議員〉上杉裕子（看護学）、大芦 治（心理・福祉学）、岡本響子（看護学）、小田和美（看護学）、
片山英雄（心理・福祉学）、上山千恵子（看護学）、川村千恵子（看護学）、窪田辰政（健康科学）、
小林昌廣（健康科学）、小林好信（健康科学）、紺井拓隆（歯学）、佐藤富美子（看護学）、
島井哲志（心理・福祉学）、瀬在 泉（看護学）、徐 淑子（社会学）、平 英美（社会学）、
高倉 実（健康科学）、高橋さつき（看護学）、近森栄子（看護学）、藤内修二（医学）、
西村ユミ（看護学）、野呂瀬崇彦（健康科学）、橋本尚子（心理・福祉学）、東中須恵子（看護学）、
久村正也（医学）、藤田裕一（心理・福祉学）、本庄恵子（看護学）、眞崎由香（看護学）、
松田 聡（医学）、松原みゆき（看護学）、道信良子（社会学）、村上 真（健康科学）、
村田正章（医学）、守本とも子（看護学）、山口 豊（心理・福祉学）、山崎裕美子（看護学）、
吉村雅世（看護学）、渡辺りわ（社会学）

＜顧問7名、理事19名（会長・副会長を含む）、監事2名、評議員38名＞

【編集委員会（常設）】

樋口倫子（委員長）、岡 美智代、諏訪茂樹、任 和子、蓮井貴子、深井稜博、馬込武志、宮本真巳、
村岡 潔、森谷 満、吉岡隆之

【広報委員会（常設）】

馬込武志（委員長）、大門恭平、村岡 潔、吉岡隆之
（ニュースレター担当）大門恭平、馬込武志、村岡 潔、吉岡隆之
（ウェブサイト担当）大門恭平、吉岡隆之

【国際交流委員会（常設）】

高橋裕子（委員長）、諏訪茂樹、中川 晶、吉岡隆之

【中川記念奨励賞選考委員会（常設）】

安酸史子（委員長）、末松弘行、豊田久美子、元村直靖（以上、理事から選出）
上杉裕子、高倉 実、松田 聡、道信良子（以上、評議員から選出）

【企画運営委員会（特別委員会）】

中川 晶（委員長）、大門恭平、岡 美智代、諏訪茂樹、高橋裕子、豊田久美子、任 和子、蓮井貴子、
樋口倫子、深井稜博、馬込武志、宮本真巳、村岡 潔、元村直靖、森谷 満、安酸史子、吉岡隆之
（教科書企画担当）諏訪茂樹、（「語る・聴く・書く」企画担当）岡 美智代、（AI等企画担当）中川 晶

【選挙管理委員会】（任期：2021年6月1日～2022年5月31日）

藤田裕一（委員長）、大門恭平、吉岡隆之

☆ 第 13 期理事・監事選挙に関するご案内（お願い） ☆

現在の第 12 期役員の任期が来年（2022 年）5 月末日で満了となりますので、例年どおり今年の 12 月に次期（第 13 期）理事・監事選挙を行います。理事会、総会の承認を得て、今回の選挙から電子投票を導入することになりました。

選挙有権者（選挙者および被選挙者）は 2021 年 9 月 30 日（木）正午時点の通常会員と学生会員です。この時点で、会員管理システム（会員マイページ）に登録されている会員情報（氏名及び学系）に基づき「選挙有権者（被選挙者）名簿」を作成し、11 月 23 日開催予定の理事会で確認いたします（9 月 30 日時点の連絡先不明者及び学系不明者は「選挙有権者（被選挙者）名簿」に掲載されません）。

選挙期日は 2021 年 12 月 16 日から 2022 年 1 月 12 日（24 時）までを予定しています。選挙要項及び個別の選挙用 ID とパスワードは、12 月 16 日に会員管理システム（会員マイページ）に登録されている選挙有権者各位の e メールアドレス宛に選挙管理委員会より個別にご案内する予定です。

「会員マイページ」にログインしていただき、今一度ご自身の会員情報（特に氏名、e メールアドレス）の確認をお願いいたします。修正・変更等のある方は、ご自身で変更をお願いいたします。（氏名と会員種別はご自身で変更ができませんので、お手数ですが事務局（info@jahbs.info）までご連絡をお願いいたします。）

なお、e メールアドレスを利用されていない会員の方は、選挙方法等について相談させていただきますので、必ず事務局（050-7115-5154）までご連絡をお願いいたします。

日本保健医療行動科学会 選挙管理委員会

☆ e メールアドレスの登録のお願い ☆

【重要なお願い】 会員管理システムの導入に伴い e メールアドレスの登録が必須となります。未だ e メールアドレスが未登録の方は、速やかに学会事務局にお知らせください。（すでに e メールアドレスを登録いただいている場合の変更は、会員管理システムからご自身で可能です。）なお、e メールアドレスを利用されていない会員の方は、ご案内の方法や会費納入等について相談させていただきますので、事務局（050-7115-5154）までご連絡をお願いいたします。

● 会員勧誘のお願い ●

会員の皆様には、本学会に興味や関心のありそうな方々に、本学会への入会をお勧め下さいますようお願い申し上げます。なお「日本保健医療行動科学会入会のご案内」は、学会 Web サイトからダウンロードができます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆ 日本保健医療行動科学会「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集 ☆

【日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞】

中川記念奨励賞の候補者を募集いたします。受賞年度において 45 歳未満の正会員で、保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、顕著な業績を上げている方が受賞の対象になります。自薦・他薦いずれでも結構ですので、奮って応募してください。応募者は、学会 Web サイトに掲載されている最新の「中川記念奨励賞内規」及び「中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規（2013.6.22.最終改定版）」を参照の上、履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。2022 年度受賞の応募期限は 2022 年 3 月末日です。

【日本保健医療行動科学会奨励研究員】

本学会では奨励研究員の制度を設けています。これは正会員で、関連分野での研究活動を行いながらも常勤の所属に恵まれない方々のために、少しでも社会的不利益を補完・救済することを目的とした制度です。この身分を希望される方は、希望の理由と履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。奨励研究員の呼称を認められた方は「日本保健医療行動科学会奨励研究員」の身分を用いて論文の執筆や学会発表ができます。対象者の年齢制限はなく、任期は 1 年間とし、状況に応じて更新が可能です。審査・登録にかかる費用は無料です。応募期限は特にありません。

第 36 回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内（第 1 報）[2021.10.1.]

＜期 日＞ 2022 年 6 月 18 日（土）・19 日（日）

＜会 場＞ Web.開催

＜テーマ＞ 対話する保健医療

＜大会長＞ 樋口倫子（明海大学）

＜主なプログラム＞

基調講演：対話する保健医療（明海大学 樋口倫子）

特別講演：オープン・ダイアログにおける多職種連携（仮）（筑波大学医学医療系 教授 斎藤環）

シンポジウム：多職種のコミュニケーション（群馬大学 岡美智代 他）

ワークショップ：カンファレンス・トレーニング（東京女子医大 諏訪茂樹）

エスノグラフィック・インタビュー（札幌医科大学 道信良子）

信念対立解明アプローチ（明海大学 林哲也）

オープン・ダイアログ（大会実行委員会）

一般演題発表、募集型交流集会（ランチョン・トーク）

＜第 36 回学術大会専用 Web サイト準備中＞



事務局便り



- 2021 年度会費（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）及びそれ以前の会費が未納の方は、早急に「会員管理システム」よりお支払いの手続きをお願いいたします（行き違いの場合はご容赦ください）。会費納入に関してご不明な点やご相談などがございましたら事務局にご連絡ください。
- 会員管理システム導入に伴い、会費の納入は、オンラインでの銀行振込（りそな銀行宛）またはクレジットカード決済（各種）となります（基本的にこれまでのゆうちょ銀行への振込・振替は利用できません）。オンライン決済では複数年の会費を同時に決済することはできません（複数年の会費の同時決済をご希望の場合は本学会事務局にご相談ください）。詳しくは学会 Web サイトをご参照ください。
- 2013 年 6 月（第 10 期）以降の理事会議事録及びニュースレター（第 81 号～第 99 号）を学会 Web サイトの会員ページに掲載しています。会員ページを閲覧するためには、ユーザー名（*****）とパスワード（*****）が必要です。ニュースレター第 100 号以降は学会 Web サイトで公開しています。
- 退会をご希望の場合は、学会 Web サイトから退会届の様式をダウンロードし、必要事項をご記入の上、PDF ファイルを e メールに添付して事務局に送付してください。

＜＜編集後記＞＞

季節の挨拶をどう書けばよいかわからないくらいに変則的な気候になりつつありますが、暦の上では彼岸も過ぎて少しは過ごしやすい季節となりました。通常より少し遅い発行となりましたがニュースレター第 102 号をお届けします。ユニークで楽しそうな東京支部報告が掲載されています。その流れを踏襲した第 36 回学術大会の第 1 報や恒例の総会報告も掲載されています。是非ご一読ください。今年の 3 月からの会員管理システム導入に引き続き、この 10 月からは投稿論文の投稿・審査システムが導入されることになっており、さらに 12 月には電子投票による理事・監事選挙が行われる予定です。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

先日の理事会で本学会員の平均年齢が話題になり、およそ 56～60 歳であることが判明いたしました。因みに 2020 年の日本全体の平均年齢は約 48 歳、世界全体の平均年齢は約 31 歳のようです。私自身、世界的には長老の部類（年齢）ですが本学会では平均的な年齢です（笑）。そんな中、私自身もそうですが、本学会のシステム化・デジタル化の流れについてゆくのはなかなか大変です。本学会らしく、アナログ的なことや古いことも大切にしつつ、新しいことを取り入れてゆければ良いなあ～と思います。事務局でも、可能な範囲でシステム化に伴うサポートを丁寧にしていただいております。お困りのことがございましたら是非事務局までご連絡ください。

初めてのオンライン開催となった第 35 回学術大会の報告、本の紹介、中川会長の挿絵ギャラリー等は、諸般の事情や紙面の都合で次号に掲載予定です。お楽しみに！（吉岡）